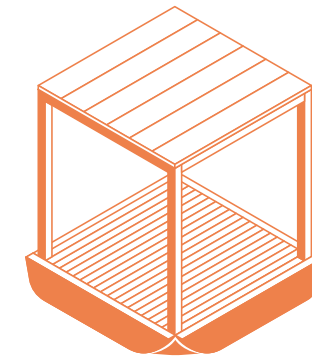


都市型自動運転船「海床ロボット」によるテクノロジーを通じて、
豊かな水辺の未来を描いています。



海 床 ロ ボ ッ ト

UMIDOKO
ROBOT

5th GEN UMIDOKO ROBOT IS BORN

「ひとが水辺に近づくために」優しく手助けをするロボット

USE CASE

OSAKA

2021年、2022年、2023年、大阪城公園東外堀実証実験



SAITAMA

2024年、越谷レイクタウン大相模調節池の水辺空間での実験



KAGAWA

2022年、瀬戸内海・栗島で海にアートを楽しめる海床ロボット実験



NAGOYA

2024年、名古屋市の超美食エリア「四間道・円頓寺エリア」で実証実験



海床ロボットは現在、活用先・協業プロジェクト募集を行い、
販売に向けて様々なフィードバックを得るフェーズにあります。

PROJECT TEAM 海床ロボットコンソーシアム

株式会社竹中工務店、国立大学法人東京海洋大学海洋工学部清水研究室、株式会社IHI、炎重工株式会社、
株式会社水辺総研、新木場海床プロジェクト、一般社団法人ウォーター・スマート・レジリエンス研究協会、
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社から成る共同プロジェクト

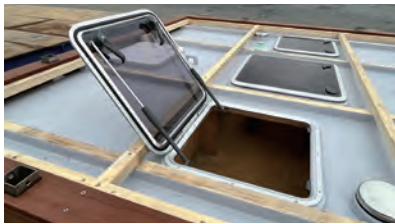
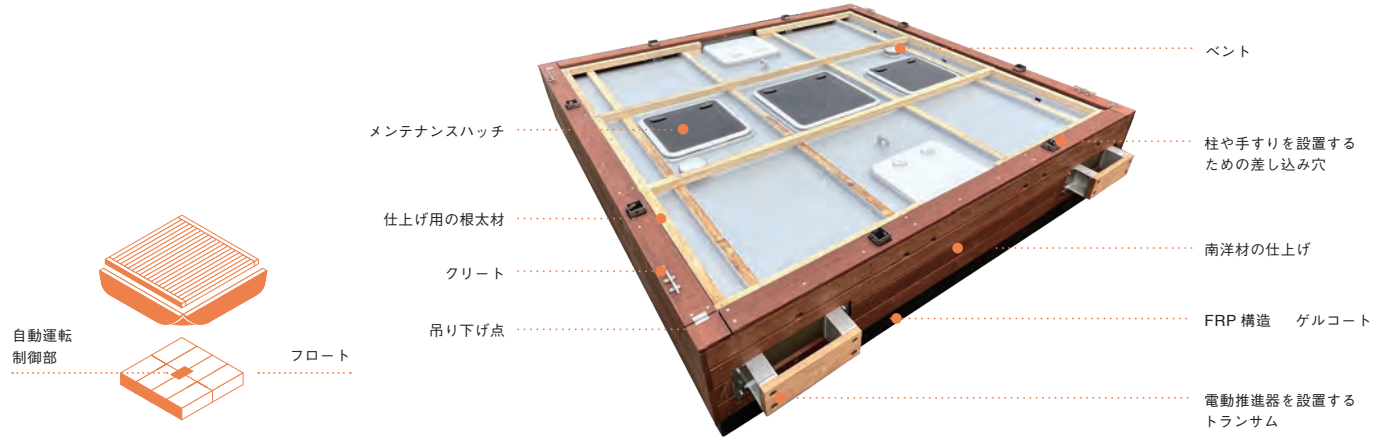
お問い合わせはウェブサイトのCONTACTからお願いします。



海床ロボット 第五世代試験機 新型フロート

Extensibility. Reliability, Weatherability, Mobility UPDATED

海床ロボット第五世代の試験機は、拡張性、カスタマイズ性をより発展させ、また防水機能強化でオペレーション時の降雨などの心配を大幅に減らし、信頼性を獲得することができました。



メンテナンスハッチ…水密区画にアクセス



吊り下げフレーム付属



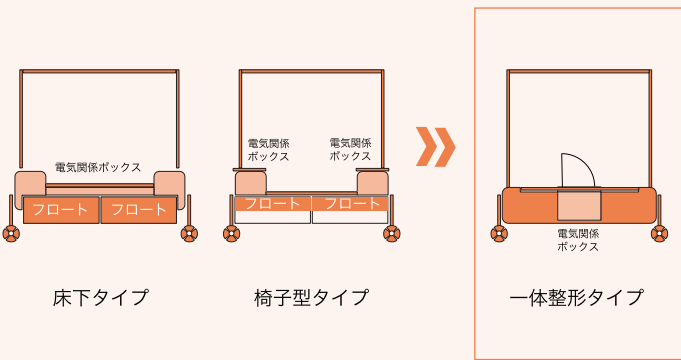
吊り下げ点…カバーを開ける



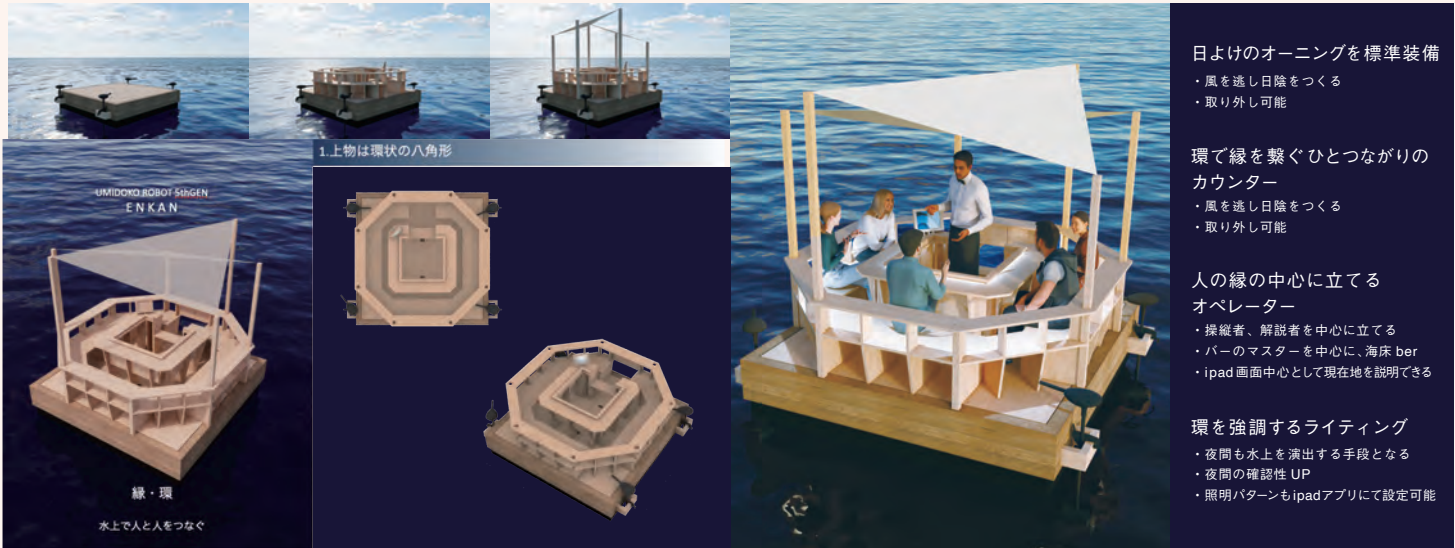
柱や手すりを設置するための差し込み穴

■ 第五世代試験機の新型フロートの仕組み

これまでの試験機は、分割輸送が可能な既製品フロートを利用していたため配線や制御機器を床下に収めることが難しく、レイアウトの自由度が低く、また降雨時の防水対策も脆弱でした。今回は、その弱点をカバーする新設計の専用フロートを開発しました。



■ 第五世代試験機のカスタマイズ性



“海床ロボット第二世代試験機のデザイン性を引き受けつつ、製品としてのレベルをあげ、汎用性を高め、耐移設性能、耐候性を獲得するチャレンジ ”

■ 第五世代試験機の特徴

- ✓ 真にカスタマイズ可能なプラットフォーム
- ✓ 専用の船体、岡村造船所でのハルの製作
- ✓ 運用の簡便さを目指したインテグレーション

1. 水密構造、船体内に配線された機器 (保管時の雨を気にしなくてもよかった)
2. 現地での組み立て、配線作業が不要に
3. ユニック付 7tトラック輸送に最適化した

■ 第五世代試験機の発展方向性について

テーマ	「ひとが水辺に近づくために」優しく手助けをするロボット	
二つの方向性	あらゆる水面を水上アトラクションに変える	誰でも運転できる「池のボート」の発展形
オペレーション	船長がいらない	船長がいる
操作	ジョイスティック	プロポでの操作
自動運転介入	ルート走行・運転エリア制限	ルート走行
知覚品質	iPad 画面、音声、光によるフィードバック	iPad 画面、音声、光によるフィードバック

海床ロボットとは？



SPEC

床サイズ：3m×3m
高さ：自由にカスタマイズ
馬力：2 馬力
スピード：約 2m/s
(静水面・船上荷重 500kg)
※船上荷重により速度は変わります
推進方向：全方位
エネルギー：電気 (バッテリー)
自動運転、自動充電